

乙訓不登校を考える親の会『大地』 5周年記念誌

そのまま ええねん



乙訓不登校を考える親の会『大地』

そのままええねん 目次

はじめに

- 02 乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年を迎えて
.....乙訓不登校を考える親の会『大地』代表 三浦 千尋
- 03『大地』アドバイザー／教育と人間関係の相談室カンナ 木下 秀美
- 04 活動記録 『大地』5年間のあゆみ

大地と出会った様々な声

- 18 会員の声
- 34 支援者の声 「乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年を迎えて」・・・登校拒否・不登校を考える京都連絡会 前田 五郎
- 35 「乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年にあたって」・・・支援塾「コスモス」 米澤 るみ
- 36 「学校を相対化する」.....乙訓少年支援の会「ひまわり」 藤木 祥史
- 37 地域と共に 「乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年にあたって」・・・向日市社会福祉協議会 木下 博史
- 38 「"学校ではない居場所"で子どもをサポート」児童発達支援・放課後等デイサービス ヴィキッズ 岡田 耕輔
- 39 「『大地』5周年によせて～小さな寺子屋から共に小さな一歩を～」・・・寺戸 来迎寺 寺子屋 福井ともみ
- 40 「親子でつくった たけのこ広場」..... M
- 41 「大山崎町にも『教育支援センター』を」..... 栗山千雅子

特集記事 大地の会員アンケートより

- 42 子どもたちが思ったこと、感じたこと
- 45 しくじり座談会 ― 子どもの発する SOS ―
- 46 親が変われば子どもも変わる／不登校になったからこそできたこと
- 48 子どもたちの居場所って？／知りたい！通信制高校
- 50 今だから気づける やっちまった対応、今だからできるかも?! ひだまり対応／
今悩んでいる方へ 会員からの一言メッセージ
- 52 大地の川柳

資料編

- 53 不登校についての資料
- 56 居場所と相談窓口
- 57 大地会則
- 58 大地の歌「僕は僕」／大地定例会のご案内

おわりに

- 59 編集後記
- 60 巻末付録「大地ノ會 歩ミ双六」



乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年を迎えて

2021年12月1日、このコロナ禍ではありますが当会は5周年を迎えることができました。これも会のメンバーはじめ、アドバイザーを柱とし、地域のみなさまのご理解ご協力の賜物であると心より感謝申し上げます。

5年前、当時不登校であった我が子も通信制高校に進学し卒業、今は現役大学生となっています。私自身が子育てに関する仕事や活動をしていたこともあり、我が子が不登校となった時にはさほど動揺はしなかったものの、これからこの子はどういう人生を送っていくのだろうかと思っていました。そうした時期に、高垣忠一郎さん(京都教育センター代表、心理臨床家)の講演を、不登校の子どもがいる友人と聴きに行ったことがきっかけとなり、不登校のわが子に向き合っている家族が集まることのできる居場所の必要性を感じ、その友人と共にこの『大地』を立ち上げました。講演会から1か月後のことです。

最初は月1回の定例会から始めることとし、6～7名の参加者でのスタートでした。その後、口コミで徐々に参加者が増え、いつときは25名にも膨れ上がり、予定の時間を1時間近くオーバーすることもありました。現在は12～3名に落ち着いています。

5年間の中で、定例会だけでなく、様々な取り組みをしてきました。詳しくは活動記録のページをご覧くださいだと思います。このように『大地』の活動に変化があるように、会に集まってきているメンバーやその子どもたちにも様々な変化を感じています。そうしたことがこの記念誌の中にたくさん盛り込まれていますので、1ページ1ページその思いを汲み取って読んで頂けたら嬉しいです。そして、不登校のことでひとり悩みを抱えている方が近くにいらっしゃったら、「こんな会があるよ」とご紹介頂けたらと思います。

本当はこのような会が不必要な社会であればいいのかもしれませんが、おそらく不登校の児童数は増え続けることでしょう。今後もみなさまの『不登校』へのご理解を頂き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

乙訓不登校を考える親の会『大地』

代 表 三 浦 千 尋



「親の会を作るのでアドバイザーになってもらえませんか?」「この日を16年間待っていました」と答えたのを思い出す。来られた二人は、私が元不登校の子どもの親であることを知っていた(詳細は私の事務所のサイトで…)。

小・中学校の不登校(年間30日以上欠席)が増加し2001年度に13万人を超えた。その後減少期を経るが2020年度は196,127人との調査結果が出された(文部科学省:2021年10月31日)。

不登校に対する考え方や呼称も大きく変わった。学校恐怖症、学校嫌い、登校拒否、そして不登校…。2016年に教育機会確保法が成立し、学校以外で学びを受けられる環境は、コロナ禍の影響もあり多様になっている。学校に「行かさなければ…」「再登校させなければ…」という親や学校による「大人の圧」は低減しているが、何か解決の光が輝いているわけではない。子も親も教師も悶々とし続けている。

その悶々を共有し、一緒に考えることを目的とした「親の会」。全国レベルの連絡会も25年の歴史を持つ。公助がない中で自助を支える地域の共助組織として、子と親に安心と勇気を紡ぎ合う不可欠な存在になっている。

『大地』は、かなりユニークな「親の会」である。毎月の定例会運営だけでも相当なエネルギーを要するのに、地元の教育委員会の後援を頂きながら地域に不登校の理解を呼びかけるフォーラムや講演会の開催、卓球を楽しむ親子の活動、地元のお寺の協力を得た子どもの居場所、それに便乗した?親の居場所、バーベキューやそうめん流しなどのお楽しみ会、学習会やワークショップ、地域のイベントへの参加、市町の適応指導教室の拡充を求める取り組みなど、多彩多様に楽しんでいる。支援者、関係者の参加も多い。

不登校の数だけその原因・理由・経過はあるのだから、一括りにはできない。直面した子と親にとって、もがき悩みながら共に人生を見つけていく営み。だから、支え合う中でこそ味わえる、人間的な共感や喜びは普遍的かつ有意義で、そして重い。家庭や個々の問題として抱え込まれることなく、地域で共に生きる課題として共有し、すべての人が豊かな気持ちで居られる、解の無い問いを包み込む地域となることを願いつつ、あの日から5年を迎える。

『大地』アドバイザー
教育と人間関係の相談室カンナ

代表 木下 秀美
(認定精神保健福祉士/自閉症スペクトラム支援士)

5年間のあゆみ

乙訓不登校を考える親の会『大地』は以下の目的をもって活動しています。

本会は、以下4つの場となることを目的とする。

1. 子どもが不登校・ひきこもりになったという同じ境遇の保護者や家族がお互いを尊重し、安心して悩みを相談・交流し合う居場所とする。
2. 子どもも家族もひとりの人間として、「自分らしい生き方」を見つけ、支え合う場とする。
3. 不登校の背景となっている社会状況を学び理解し、様々な情報を共有し、地域に向けて発信する。
4. 不登校に関する乙訓地域での専門職・支援者・関連機関等とのネットワーク作りや親の会としての子どもの居場所について考える場とする。

向日市民協働センターかけはしに団体登録（2016年12月）

長岡京市民活動サポートセンターに団体登録（2017年2月）

登校拒否・不登校問題全国連絡会団体会員に加入（2019年1月）

定例会

月1回、原則第3日曜日（9月を除く）向日市寺戸公民館1F和室にて開催

2016年（12月のみ）参加のべ人数 8名

2017年1月～12月 参加のべ人数 133名、参加人数 34名（うち、正会員9名、ビジター会員25名）

2018年1月～12月 参加のべ人数 219名、参加人数 50名（うち、正会員23名、ビジター会員27名）

2019年1月～12月 参加のべ人数 173名、参加人数 45名（うち、正会員27名、ビジター会員18名）

2020年1月～12月（4・5月はコロナ感染予防のため中止）

参加のべ人数 135名、参加人数 39名（うち、正会員23名、ビジター会員16名）

2021年1月～11月 参加のべ人数 158名、参加人数 37名（うち、正会員22名、ビジター会員15名）



【京都新聞 2017年12月7日掲載】

京都府向日市を拠点にしている「乙訓不登校を考える親の会『大地』」が、発足から1年を迎えた。子どもの不登校に悩む保護者が集い、専門家も交えて家庭や学校、親自身のことで意見を交換し、解決策を探りながら交流を深めている。

大地は、子どもが不登校だった同市の保護者ら数人が昨年12月1日に設立。直前に大山崎町で心理臨床家の高垣忠一郎さんの講演を聞き、子どもに寄り添った教育の大切さを知り、不登校について親同士が向き合える場所を作ろうと考えたことが、大地を立ち上げるきっかけになった。

現在の会員は9人で、毎月第3日曜の午前中に寺戸公民館（向日市寺戸町）で定例会を開いている。会員以外にも参加者はおり、毎回10人前後で子どもや家族の様子、抱えている不安や先生との関わり方などを話し合う。

先月の定例会には乙訓地域や京都市から9人が参加。中高生は進路を決める時期とあって、保護者からは不登校に加え、受験勉強にも身が入らない状況を危ぶむ声が出た。サポーターとして大地に参加する精神保健福祉士の木下秀美さんは「何が何でも15歳の春に高校に行かなければならないことはない。本人のスイッチが入るのを待ってあげて」と助言していた。

小学4年の長男が3カ月前から不登校になった京都市の女性は、友人の紹介で初めて大地の定例会に参加し「幅広い年代の不登校の状況が聞けた。悩んでいるのは私だけじゃないということも分かり安心感が持てた」と話す。

大地の三浦千尋代表は「子どもが安心して生活できることが一番大切。そのために何が必要か、みんなで考えていきたい」と、今後の活動を見据える。



特別定例会 年1回（原則9月）開催

第1回 2017年9月17日（土）10:00～12:00

講演『不登校・ひきこもりの子どもへの家族としての関わり方
—自己肯定感をほぐくむ子育て—』

講師：高垣忠一郎氏（京都教育センター代表＜心理臨床家＞）

会場：乙訓医療生活協同組合 2F ホール

後援・助成：京都新聞社会福祉事業団

（参加人数 58 名）



不登校や引きこもりの解決には子どもの自己肯定感を育むことが大切と話す高垣さん
（右奥）＝京都府向日市寺戸町・医誠会診療所

【京都新聞 2017年9月18日掲載】

「自己肯定感を育んで」 京都で不登校や引きこもり考える

子どもの不登校や引きこもりについて考える講演会が17日、京都府向日市寺戸町の医誠会診療所であった。京都教育センター代表の高垣忠一郎さんが「自己肯定感を育む子育て」と題して、子どもに対する家族の接し方について話した。

子どもの不登校や引きこもりに悩む保護者が集える場として、昨年12月に発足した住民団体「大地」が特別定例会として開催。乙訓地域の保護者ら約50人が耳を傾けた。

高垣さんは、現代の日本社会について「人間を『使える』か『使えないか』で評価している」と指摘。子どもたちも常に他人の評価を気にかけ、ありのままの自分を見つめられず、不登校や引きこもりで苦しむ要因になっていると強調した。誰もが自分らしく生きられる社会を実現するために「失敗した時に『大丈夫だよ』と許される体験が大切だ。子どもたちは痛みに寄り添ってもらうことで、だめな部分もある自分でも存在していいんだという肯定感を育む」と説明した。

乙訓不登校を考える会『大地』特別定例会

不登校・ひきこもりのお子さんがいらっしゃる保護者、ご家族のみならず、「この状態を維持しているだけではないのか?」「子どもにどのような言葉をかけたいのか?」「パニックばかりでは居られない?」など、悩んでおられないでしょうか。日々ちやちやしている気持ち、高垣先生のお話で、光さす道が見えてくるかもしれません!

講演『不登校・ひきこもりの子どもへの
家族としての関わり方—自己肯定感を育む子育て—』

講師：高垣忠一郎氏
（京都教育センター代表＜心理臨床家＞）

【プロフィール】
1944年高松生まれ。1968年京都大学教育学部卒。専攻は臨床心理学。京都大学助手、大阪大学助教授、立命館大学大学院教授などを経て（2014年9月退職）、京都市立向日市寺戸町・医誠会診療所を開設。主な著書に『生きることに希望を!』『不登校・ひきこもりの子どもと向き合う』『不登校・ひきこもりの子どもと向き合う』『自己肯定感を育んで、なんでもか?』『自分を育てて、か?』などがある。

日 時：2017年9月17日（日）10:00～12:00（受付9:45～）
会 場：乙訓医療生活協同組合 2Fホール
（医誠会診療所）

参加費：500円（大地会員は300円）
定 員：50名（事前予約制）

第2回 2018年9月8日（土）14:00～16:30

乙訓不登校フォーラム

『不登校ってなんだ!? 体験者に教えてもらおう』

～本人は何を思っていた? 家族や学校との関係は?～

コーディネーター：木下秀美氏

（認定精神保健福祉士、自閉症スペクトラム支援士
教育と人間関係の相談室カンナ）

スピーカー：不登校を体験した当事者5名

会場：長岡京市立産業文化会館 1階 大会議室

後援：向日市教育委員会・長岡京市教育委員会・大山崎町教育委員会

後援・助成：京都新聞社会福祉事業団

（参加人数 112 名）

乙訓不登校を考える会『大地』特別定例会

学校に行かない（行かない）我が子。家にずっといてもいいけれど、高校に進学できるのかな? 社会に出られるのかな? と、家族は不安と焦りを抱えながら、どうにか行かせるための努力をします。実際に不登校であった体験者に話を聞いてもらい、不登校のきっかけや、その時どんな気持ちでいたのか? 学校や家族に対してどんなことを望んでいたのか? を聞いて頂きます。

乙訓不登校フォーラム

『不登校ってなんだ!? 体験者に教えてもらおう』

～本人は何を思っていた? 家族や学校との関係は?～

2018年9月8日（土）
14:00～16:30
会場：長岡京市立産業文化会館
1階 大会議室
（後援会館大ホールより、近隣のバス、駐車場はありますが予約制です）

参加費：一般 500円
高校生、会費 300円
中学生以下無料
定 員：100名（事前予約制）

【プログラム】
13:30～ 受付開始（駐車場あり）
14:00 開会のあいさつ
14:10～15:45
第1部 不登校体験者が語る
スピーカー（予定）
高垣 忠一郎氏（不登校・ひきこもりの専門家）
木下 秀美氏（認定精神保健福祉士、自閉症スペクトラム支援士）
大西 孝次郎氏（不登校・ひきこもりの専門家）
社会人女性（不登校・ひきこもりの経験者）
社会人男性（不登校・ひきこもりの経験者）
コーディネーター 木下 秀美氏
（認定精神保健福祉士、自閉症スペクトラム支援士）

5分間休憩（15:45～16:00）
第2部 会場との意見交流会
16:30 閉会のあいさつ



第3回 2019年9月8日(日) 14:00～16:30

乙訓不登校フォーラム

『不登校ってなんだ!? 体験者に教えてもらおう』

～不登校を共に生きる、共に越える時をめざして～

コーディネーター:

木下秀美氏(認定精神保健福祉士、自閉症スペクトラム支援士
教育と人間関係の相談室カナナ)

スピーカー: 不登校を体験した当事者 6名

(家族3名、当事者3名[高校生2名、社会人1名])

会場: 長岡京市立産業文化会館 1階 大会議室

後援: 向日市教育委員会・長岡京市教育委員会・
大山崎町教育委員会

後援・助成: 全労済地域貢献助成事業
(参加人数 100名)



— 2020、2021年度 コロナのため開催せず。 —

子育てシンポジウムの開催

子育てシンポジウム

「悩んでもええやん それが子育てでできている証拠
—みんなでつながり前に進もう—」

日時: 2018年1月13日(土) 13:15～16:00

会場: 長岡京市中央公民館 市民ホール

主催: 悩んでもええやんシンポジウム実行委員会

共催: 長岡京市女性交流支援センター

後援: 長岡京市教育委員会・向日市教育委員会・
大山崎町教育委員会

後援・助成: 京都新聞社会福祉事業団

協力: NPO 法人つくしクラブ・NPO 法人おとくにパオ・
放課後等ディサービス『わいわいプラス』

【京都新聞 2018年1月掲載】

学習困難や不登校、悩み共有を 京都、13日にシンポ

学習に困難を抱えていたり不登校だったりする子どもの親たちでつくる乙訓地域の自助グループが連携し、13日午後1時15分から京都府長岡京市天神4丁目の中央公民館で、子育ての在り方を考えるシンポジウムを初開催する。支援の現状や悩みを共有する姿を伝え「新たなつながりへの入り口になれば」と、来場を呼び掛けている。

学習面などで支援がいる児童や未就学児らの親などが同市内を拠点に集まる「すぷらうと」「そだちカフェ」「フェリーチェ」と、不登校の子がいる親や支援者が向日市内で定例会を開く「大地」の計4団体が実行委員会を結成。子どもや親への支援の輪を広げようと準備を進めてきた。

当日は、拡大教科書を活用しながら学校生活を送る児童の実例や、子どもの困難に気づき、受容するまでの親の心情、不登校への向き合い方などを、各団体のメンバーが活動内容とともに実体験に基づいて報告する。

続くパネル討論では、障害福祉や児童福祉の行政担当職員、臨床発達心理士らとを交え、学びへの支援の現状や課題、教育現場に必要な合理的配慮の在り方について語り合う。

子育てシンポジウム

「悩んでもええやん それが子育てできている証拠 Vol.2

— “おりじなる” の “わが子育て” —

みんなでつながり考えませんか—

日時：2019年1月27日（日）13:30～16:00

会場：長岡京市中央公民館 講座室 他

主催：悩んでもええやんシンポジウム実行委員会

共催：長岡京市民活動サポートセンター

後援：助成：京都新聞社会福祉事業団

後援：長岡京市教育委員会・向日市教育委員会・

大山崎町教育委員会



子どもの学びを支える親の会

すぶらうと

うちの子、ちょっとほかの子と違う。通常級にいるけど、学習が気になって…。宿題が大変…。集団に入れない…。子どもの学びにくさについて、親同士が気軽に悩みを語り合い、専門家の支援者と一緒に子どもの学びにくさなどについて学習しています。



子どもと親のそだちを語る会

そだちカフェ

周りの子どもと違う、落ち着かない、勉強がついていけない…。もしかしたら、子どもが一番困っているかも知れません。親や家族がどう関われば良いのか、子どもはどう思っているのか…。人間発達支援の専門職のアドバイスももらいながら、一緒にそだち合うカフェを開催しています。



子どもと共に育つ親の会

フェリーチェ

様々な理由で、悩みや生き辛さを抱えた子どもたちと保護者、支援者が集まり、互いに支え合い、成長し合うためのピアサポートグループです。月1回、集まっておしゃべりや情報交換をしています。また、子どもたちの居場所「わたしたちのPLACE」も始めました。「地域でゆるくつながれる場所づくり」を目指して活動中です。



乙訓不登校を考える親の会

大地

友だちとの付き合いがうまくいかない…。勉強についていけない…。毎日、クラブ・宿題・塾などの習い事で忙しくて疲れている…。など、様々な理由をきっかけに、学校に行けなくなった子どもたち。その家族がお互いを尊重し合い、安心して悩みを語る居場所です。支援者を交えての月1回の定例会や講演会など学ぶ機会を設けています。

【主催】悩んでもええやん！シンポジウム実行委員会（すぶらうと そだちカフェ フェリーチェ 大地）

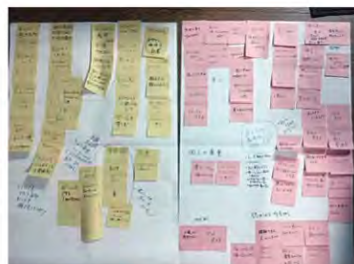
学習会・ワークショップの開催

2018年12月16日 大地設立2周年記念

ワークショップ「子どもの居場所」とは



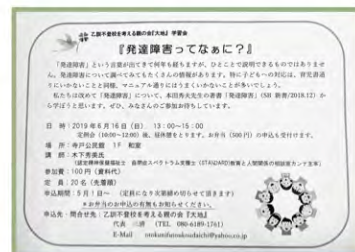
2つのグループに分けて、イッセンをペタペタ。
それぞれの思う「子どもの居場所」を考えてみました。



2019年6月17日 ミニ学習会「発達障害について」



本田秀夫先生の書籍「発達障害」から学びました。



2020年7月19日 ミニ学習会「学校からみえる不登校—元校長先生といっしょに考えよう—」



コロナ禍の中、ようやく実現!!

大地通信「そのままでええねん —学校へ行かない選択をした子どもたちと共に」の発行

この記念誌のタイトル「そのままでええねん」はこの通信からとりました!!

2021年6月 第1号発行 テーマ『不登校とゲーム』

【私たちの想い】

私たちは地元の親の会「大地」で同じ悩みを持つ仲間に出会いました。仲間と過ごすうち、不登校の子ども達は自分の心と身体を守るため自分らしく生きる道をただ選んだだけ。親も子どもも『そのままでええねん』、そのまんまを受け入れたらいいってことに気づきました。『不登校新聞』は、ある会員さんが、「もう自分は読んだから」と親の会に提供してくださったものです。貸し出しOKとしていたものの借り手はなく、もったいないなぁと思っていました。そこで通信という形なら知ってもらえるのでは!と考えました。この通信で心が軽くなってもらえたら嬉しいです。



不登校で悩んでおられる方々へ向けて様々な記事などを集めて発信します。

